

開講科目名	比較政策論		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

従来、政策は国民国家単位で検討され、立案されるのが一般的だったが、グローバル化の進展による越境的な課題の急増は一国単位での政策実施の有効性を著しく低下させた。世界各国は政策実践を相互に参照し、協調しながら、自国の歴史的・制度的背景に適合する政策を選択することを求められている。本科目では、先進諸国が共通して直面している政策課題とそれに対する各国の対応について、G8諸国の政策実践を比較しながら検討する。具体的には財政再建、通商政策、産業政策、地球温暖化対策、地方分権、移民・外国人に対する対応、少子・高齢化、格差是正、犯罪・テロ対策、教育改革、都市再生、雇用政策、農業・食糧政策、エネルギー政策、男女共同参画などの分野を取り上げる。

授業の概要と計画

本年度は昨年出版されたJessica R. AdolinoとCharles H. BlakeによるComparing Public Policies(CQ Press, 2011)の各章を2週に1章のペースで事前に読んできてもらうことを前提に講義を行いたい。具体的には以下の日程で進める。

1. 政策過程とその理論
2. 各国の政治システムの比較
3. 移民・外国人政策(1)(米国、日本、ドイツ)
4. 移民・外国人政策(2)(フランス、イタリア、イギリス、EU)
5. 税制政策(1)(米国、日本、ドイツ)
6. 税制政策(2)(フランス、イタリア、イギリス、EU)
7. 医療・保健政策(1)(米国、日本、ドイツ)
8. 医療・保健政策(2)(フランス、イタリア、イギリス、EU)
9. 社会政策(1)(米国、日本、ドイツ)
10. 社会政策(2)(フランス、イタリア、イギリス、EU)
11. 教育政策(1)(米国、日本、ドイツ)
12. 教育政策(2)(フランス、イタリア、イギリス、EU)
13. 環境政策(1)(米国、日本、ドイツ)
14. 環境政策(2)(フランス、イタリア、イギリス、EU)

各政策分野はどのような特徴をもっているのか？各政策分野にはどのようなステークホルダーが存在するのか？同じ政策分野でも国や時代によって政策対応が異なっているのは何故か？、政策立案・提言をする場合にクリアしなければならないポイントは何か？等の点について、教材を読み、授業を聞いた上で、毎回短いコメントペーパーを授業中に作成してもらう。

成績評価と基準

政策コメントペーパー:期末試験=50%:50%の割合で総合して評価する。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

オフィスアワー・連絡先

月、水、金の昼休み、それ以外は要予約
yasuoka@kobe-u.ac.jp
研究室 E409

学生へのメッセージ

今年度からの新設科目ですので、初めて受講する皆さんと一緒に授業を作り上げてゆきたいと思います。秋から留学する人やこれから留学することを考えている人にとっては、毎週英文のリーディング・アサインメントを読んで授業に臨むトレーニングにもなるかと思います。

今年度の工夫

新設科目なので全てが新しいやり方で進めますが、今年は英文のテキストを教科書として使用しながら講義を行うのが特に新しい点です。

教科書

Comparing Public Policies: Issues and Choices in Industrialized Countries / Jessica R. Adolino and Charles H. Blake : CQ Press, 2011, ISBN:978-1-933116-78-5

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード